

ハマカルアートプロジェクト2024

事業紹介・採択者一覧

Ver 1.3 2024年10月29日時点

問合せ先

ハマカルアートプロジェクト2024事務局
株式会社Wasshoi Lab

メール | contact☆hamacul-project.com (☆を@に変更してください。)

ハマカルアートプロジェクト2024とは

ハマカルアートプロジェクト2024では、福島県の浜通りを中心とした**福島12市町村^{※1}**において、**芸術家や学生のアート活動や、アート活動の運営を行う事業者を支援しています。**

アーティストやクリエイターが地域を舞台に様々な活動を行い、地域の歴史、伝統、生活、文化の再発見、住民との交流を生み出し、**地域への創造的な価値が生み出されることを目指しています。**

※1 東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった、福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯舘村を指します。



(2023年度の活動の様子)



ハマカルアートプロジェクト2024の概要

● 活動の内容

ハマカルアートプロジェクト2024は、以下の2種類の募集枠を用意し、活動を行う芸術家や事業者を募集しました。

学生制作型 …… 学生が主体となって地域でアート活動を行うため、法人・団体が企画・運営する

滞在制作型 …… 芸術家が、一定期間地域に滞在してアート活動を行う

採択された事業者の活動に関する詳細は、本資料後半の採択者別情報のページをご覧ください。

● 活動期間

2025年2月14日までの間に、各事業者が活動を行います。（事業終了後に事業者が自主的に活動を行う場合もあります。）

● 最新情報の発信源

最新情報は、サイトやSNSで発信します。

webサイト <https://hamacul-project.com/>

Instagram @hamacul_art_project

note <https://note.com/hamaculproject/>

webサイト



Instagram



note



ハマカルアートプロジェクト2024の実施目的

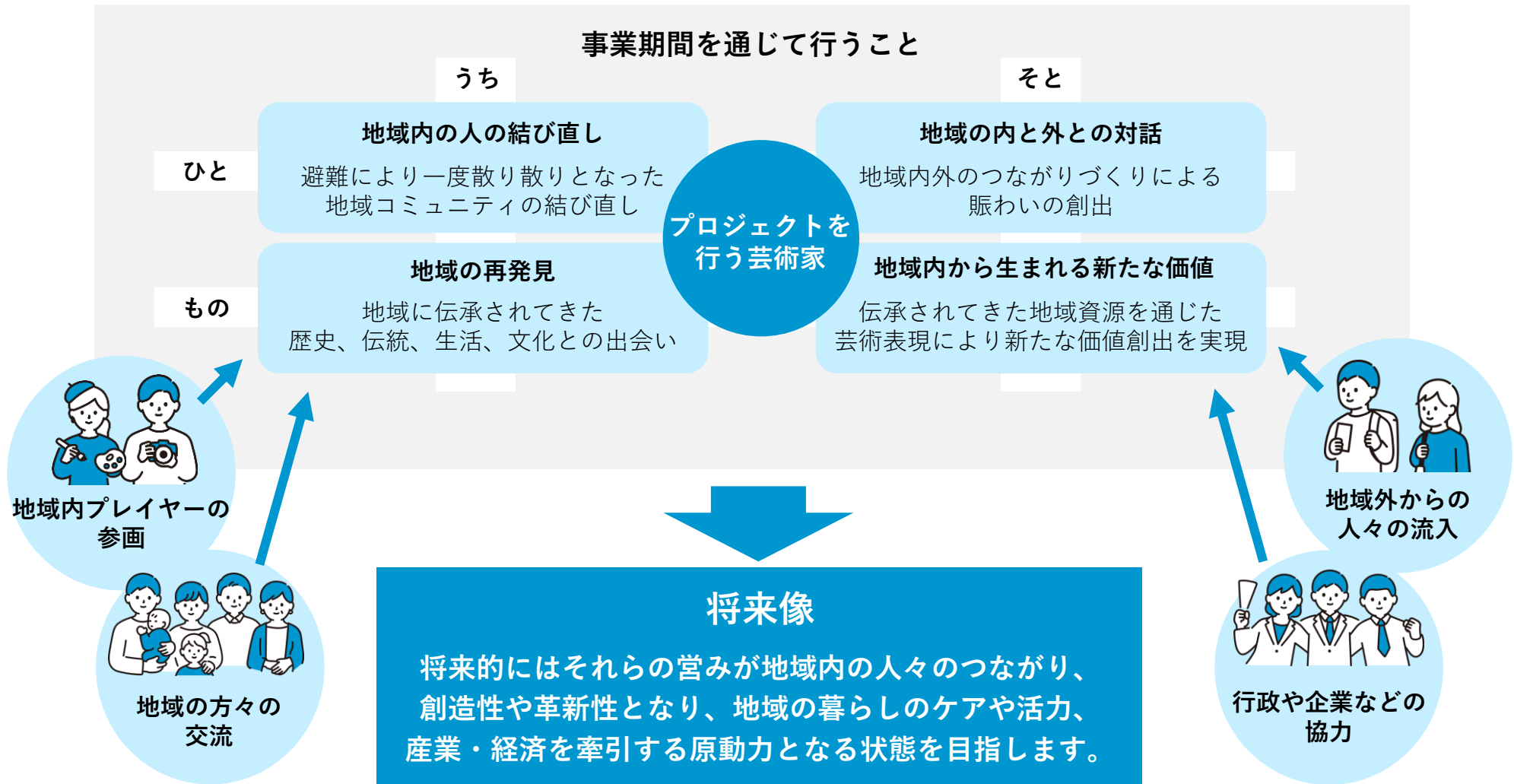
東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故により、12市町村の人々の暮らしやつながりは大きな影響を受けました。12市町村では広範囲にわたって避難指示が発令され、それらの地域で暮らす住民の方々はそれまでとは一変した生活を余儀なくされました。避難指示が徐々に解除され、復興は進展しつつある一方で、人々のつながりの結び直しや地域の産業・経済の更なる復興・進展など当該地域において挑戦していかなければならない課題は多々あります。

本事業では文化・芸術といった人々の創造性や表現力に着目し、芸術家が一定期間地域に滞在し得る体験（住民との交流や当該地域に伝承されてきた歴史、伝統、生活、文化などのよさを、あらためて知ること）を、創造的活動につなげることで、**当該地域の新たな価値や地域内外の人々の対話や交流を生み出すことが目的です。**

将来的にはそれらの営みが**地域内の人々のつながり、創造性や革新性となり、地域の暮らしのケアや活力、産業・経済を牽引する原動力となる状態の実現を目指します。**

そのために、芸術家には以下の図表で示したとおり、地域の歴史・伝統・生活・文化と出会い、創造的活動を通じて、「地域内の人々の結び直し」「地域の内と外との対話や賑わいの創出」「地域の再発見」「地域内から生まれる新たな価値の創出」に取り組むプロジェクトの創出を目指します。

ハマカルアートプロジェクト2024の実施目的



昨年度までの取り組み

ハマカルアートプロジェクトは、前身のプロジェクトを含めると3年目の活動となります。

2022

福島浜通りシネマプロジェクト



Fukushima Hamadori Cinema Project 2022

2022年度、経済産業省では本事業の前身となる「福島浜通りシネマプロジェクト」を発足しました。映像・芸術文化を通じた地域の新たな魅力創出を目的として開催され、福島県浜通りを舞台に全国から集まった小中学生が、専門家チームと共に短編映画づくりに取り組みました。

2023



2023年度は福島浜通りシネマプロジェクトが発展して、経済産業省内に「福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト」が発足。12市町村内でアート活動を行う学生を支援する「12市町村学生アート制作プロジェクト」と、12市町村内で特定地域に一定期間滞在し、創作活動を行う芸術家を支援する「ハマカルアートプロジェクト」の2事業が実施されました。

採択者の一覧

学生制作型

No.	申請枠	事業者名	事業名	活動地域
01	① 実習枠	株式会社アール・エフ・エー	浜通りの「台」滞在制作プロジェクト	飯舘村・南相馬市小高区・浪江町・双葉町
02	② 企画募集枠	ガッチ株式会社	浪江学生デジタルアート道場2024	大堀地区を中心とした浪江町
03	① 実習枠	株式会社キネマ旬報企画	福島浜通りシネマプロジェクト2024	双葉町
04	② 企画募集枠	合同会社toten	Artist-in-Residence for students in Futaba	双葉町
05	② 企画募集枠	福島大学芸術による地域創造研究所	鮭のぼりアートプロジェクト	双葉町 他

(事業者名順)

採択者の一覧

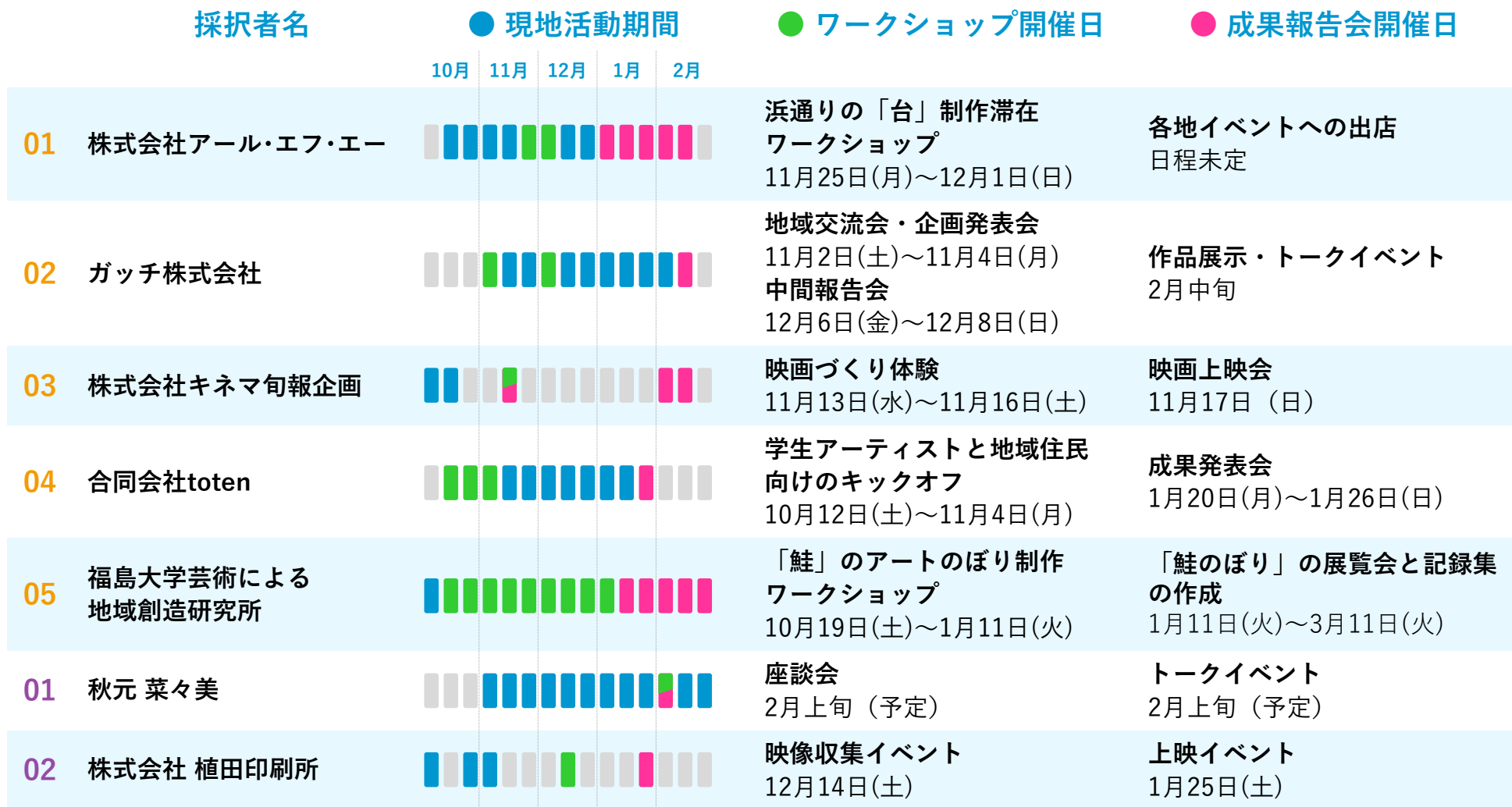
滞在制作型

※滞在制作型は、一次公募採択者のみの情報です。二次公募は10月末頃に採択者が決定する予定です。

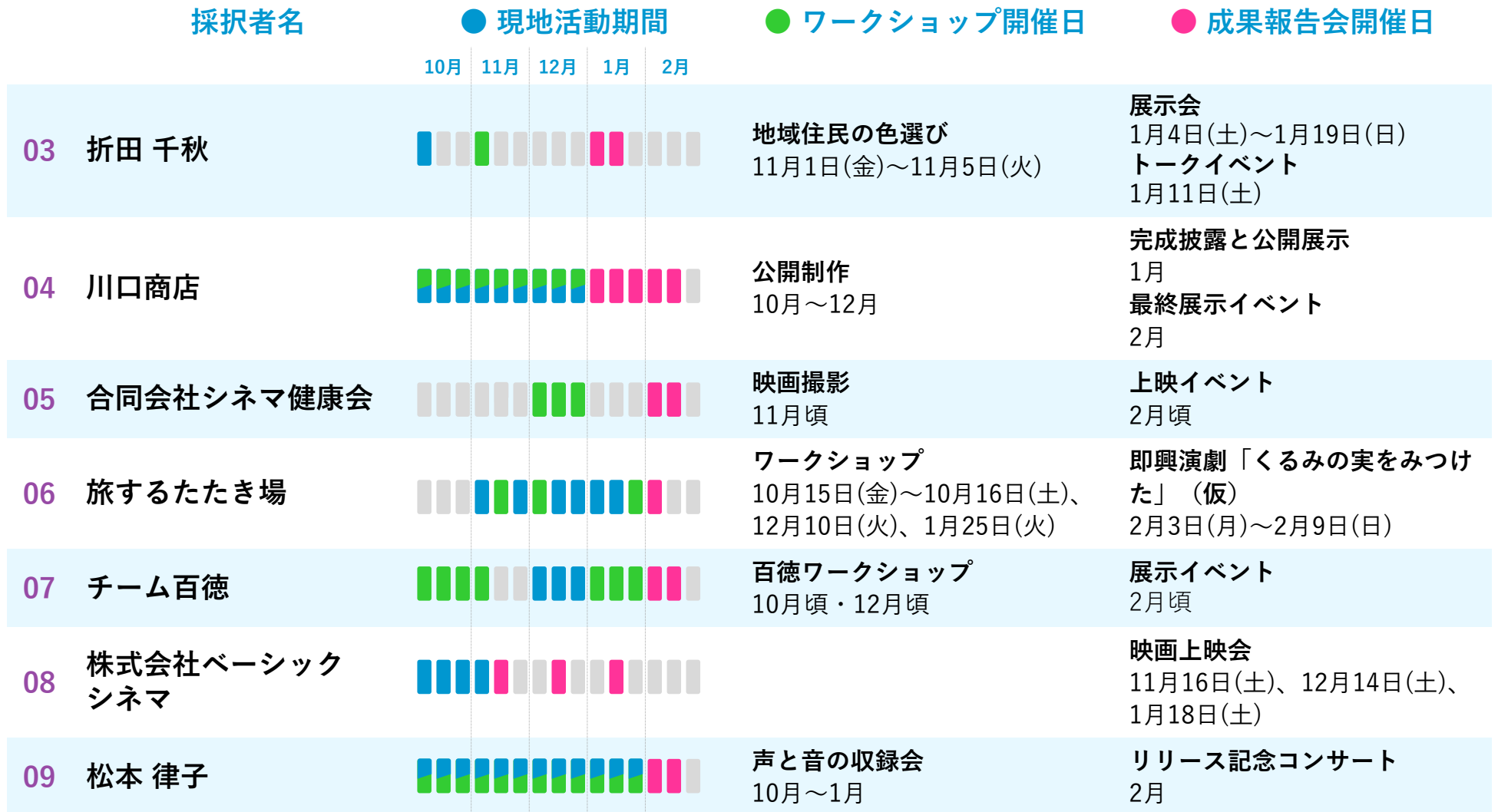
No.	事業者名	事業名	活動地域
01	秋元 菜々美	土地の時間をめぐる滞在制作事業（仮称）	富岡町
02	株式会社 植田印刷所	ロココク・キッチン	富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市
03	折田 千秋	地域風景の印象色をもとにしたグラフィック作品 「コレクティブ・イメージ」の制作及び展示	葛尾村、浪江町
04	川口商店	アーティストインレジデン巢	南相馬市
05	合同会社シネマ健康会	福島県12市町村ロケ映画プロジェクト 川内村編 ～ 映画制作&ワークショップ～	川内村
06	旅するたたき場	旅するたたき場in檜葉町 即興演劇 「首長竜と泳ぐ」の上演とWS事業	檜葉町
07	チーム百徳	葛尾村の百徳	葛尾村
08	株式会社ベーシックシネマ	映画『そこにあるものべきものたち』 福島浜通り縦断上映会	浪江町、南相馬市、いわき市
09	松本 律子	川俣町の来し方行く末を、世界中で聞いて、 感じる	川俣町

（事業者名順）

採択者の活動スケジュール



採択者の活動スケジュール



事業者情報



代表者 取締役 藤村 龍至

所在地 東京都上野桜木 1-7-5-103

WEBサイト

<http://ryujifujimura.jp/>



事業の基本情報

事業名 浜通りの「台」滞在制作プロジェクト

実施地域 飯館村・南相馬市小高区・浪江町・双葉町

連携団体 図図倉庫／合同会社MARBLiNG／一般社団法人コロガロウ 他

Point

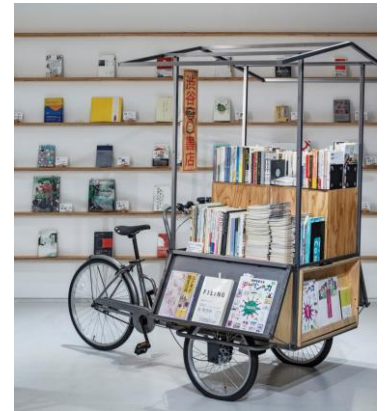
東京藝術大学の学生が中心となる「ソーシャル・アーキテクト」のチームが12市町村内のコミュニティ活動をサポートする「台」を制作

事業の概要

本事業は、福島・浜通りの若い世代による意欲的な取り組みに共感しつつ、アート活動による文化の再発見や新しい価値の創出による新たな人の交流を促すというプロジェクトの趣旨に賛同し、変動する原発被災地における建築や場づくりの役割を問う取り組みとして企画されました。

企画内容は、福島12市町村のうち、まちなかでの活動を展開する起業者の皆さんの拠点となっている施設等のある4市町村を選び、それらの小さな起業や場のコミュニティ活動をサポートする「台」（軽車両や移動式什器）を東京藝術大学の学生が中心となる「ソーシャル・アーキテクト」のチームが設計・制作します。

4つの拠点は、民間により運営され、「100の社会課題を100の事業によって解決する」を掲げ起業者のサポートを行う「小高パイオニアヴィレッジ」に加え、元ホームセンターを改装しながら未来の環境づくりのハブ空間を作る「図図倉庫」（飯館村）、災害の伝承を担う公共施設「福島県東日本大震災・原子力災害伝承館」（双葉町）、地域と関わりながら産業創出をめざす「福島研究教育機構（F-REI）」（浪江町）を選び、それらを「台」から生まれる場で結ぶこと、浜通りに新たな場のデザインネットワークを生み出すことを目的としています。



事業期間中の主なイベント

Event 1

浜通りの「台」制作滞在ワークショップ

11月25日 (月)



12月1日 (日)

今後浜通りの多様なマチナカで活用されていく「台」を制作レジデンスである凶凶倉庫を舞台に公開制作します。塗装や組立等の作業を共有し、地域拠点で使っていく什器の制作に地域が関わる参加型DIYイベントを行います。



Event 2

浜通りの「台」がマチナカへ

出店イベント未定

「台」の活用の実践として、各地のイベントへの出店を行います。(大型イベント1回、地域小型イベント1回、各地域拠点でのミニイベント等に2回以上出店を目標)



事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 代表取締役 松永 武士

所在地 東京都港区六本木7丁目15-1
SENQ9F

WEBサイト

<https://gatch.co.jp/>



事業の基本情報

事業名 浪江学生デジタルアート道場2024

実施地域 大堀地区を中心とした浪江町

連携団体 株式会社経営芸術総合研究所 田島 悠史 氏
／浪江町／公益社団法人 福島相双復興推進機
構／東京電力ホールディングス株式会社 他

Point

3組の学生アーティストによる多様な分野の
デジタルアート作品を制作

事業の概要

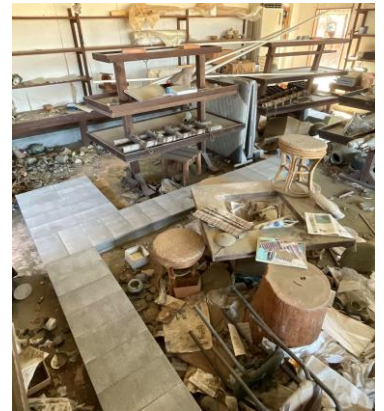
本事業は、アート制作をする学生の公募、制作支援を通して、最終的に浪江町での展示を目指す「浪江学生デジタルアート道場2024」を実施するものです。

デジタルアート制作に取り組む学生を3組程度公募し、最終的に浪江町大堀地区にある松永窯店舗跡地での展示を実施します。

採択学生は、2回の支援プログラムを通して作品を磨き上げます。2024年9月頃に地域ツアーを含む「地域交流会・企画発表会」を実施したのち、2024年11～12月頃に「中間発表会」を実施し、地域芸術祭プロデューサーが助言を行います。

このプロセスを通じて、浪江町大堀地区での作品制作の意味や、学生本人が気づいていない発見、独自の表現方法を拾い上げ、独自性のあるアート活動を実現します。

最終的には、2025年2月に松永窯店舗跡地で展示を行う予定です。本展示は、地域住民や専門家、一般の方々にも公開することで、交流する機会をつくり、次の展示などに繋げ、多くの関係人口を生み出すことを狙います。



■ **事業期間中の主なイベント**

Event 1

地域交流会及び企画発表会

11月2日 (土)

学生作家たちに浪江町や大堀地区を知ってもらうために地域ツアーや住民との交流会を実施する。また、学生作家たちの当初の作品プランを発表し、交流のきっかけを促す。

▼
11月4日 (月)

Event 2

中間発表会

12月6日 (金)

学生たちの成果をプレゼンし、専門家の田島悠史氏が助言を行う。地域住民も参加し意見を交わし、中間発表会後には交流会を行い、さらなる意見交換と交流を狙う。

▼
12月8日 (日)

Event 3

作品展示・トークイベント

2025年

学生が展示会場に常駐し、来場者に作品解説を行う。また、トークイベントを実施し、住民と地域内外の人々との交流を促進する。

2月中旬

■ **事業全体のスケジュール**



事業者情報



代表者 代表取締役社長 星野 晃志

所在地 東京都中央区銀座3-10-9
KEC銀座ビル2階

WEBサイト

<http://eiga24ku.jp/>



事業の基本情報

事業名 福島浜通りシネマプロジェクト
2024

実施地域 双葉町

連携団体 双葉町役場／向田優／一般社団法人ふたばプロジェクト／双葉町産業交流センター／東北アクセス株式会社／吉田康弘（映画監督）／市井昌秀（映画監督）／永田琴（映画監督）
他

Point

5日間で学生が双葉町を舞台にしたオリジナルの短編映画を制作

事業の概要

本事業では、全国から募集した学生とプロの映画監督やスタッフが、双葉町を舞台にしたオリジナルの短編映画を制作します。

映画の制作期間は、5日間。

はじめに、ロケハン、地域の方々へのインタビューを行い、映画の設計図となる脚本を作っていきます。

脚本完成後は、俳優のキャスティング、撮影に必要な衣裳や小物などの準備を行います。

クランク・イン後は、撮影、録音、演出、出演などチームで話し合い、役割分担をしながら映画づくりを進めていきます。

クランク・アップ後は、編集や音楽選定、また多くの人に観てもらうために、映画のチラシやポスターも作ります。

最終日は成果発表にあたる映画の上映会です。参加者の舞台挨拶をはじめ、地元住民の方々をお招きして、今後のまちづくりをテーマに意見交換を行います。

なお、学生と地域との交流を深めるため、映画づくり体験実施の前段階で、選抜された学生による「リーダーズキャンプ」を行い、現地視察や地元企業・地域住民とのコミュニケーション活性化の場を創出することも予定しています。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

映画づくり体験

11月13日（水）



11月16日（土）

全国各地から集う学生たちを中心に、双葉町に滞在（4泊5日）し、映画界の第一線で活躍するプロの映画監督やスタッフのサポートを受けながら、映画作りを行います。
ロケハン、脚本づくり、撮影、編集、ポスター作りを4日間の工程で行います。

Event 2

映画上映会

11月17日（日）

映画づくり体験の最終日、双葉町の住民や撮影に協力した関係者、保護者、マスコミらに集まっていたいただき、作成した映画の上映会を行います。
上映後は振り返りや交流の場を設け、意見交換を行います。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 川上 友聖

所在地 福島県双葉郡双葉町長塚鬼木5-2

WEBサイト

<https://www.instagram.com/toten.inc/>



事業の基本情報

事業名 Artists in FUTABA 2024

実施地域 双葉町

連携団体 一般社団法人双葉郡地域観光研究協会／夢ふたば人／標葉せんだん太鼓／双葉町役場

Point

双葉町を「五感」で知るをテーマとして学生アーティストが滞在制作活動と発表を行うプログラムを実施

事業の概要

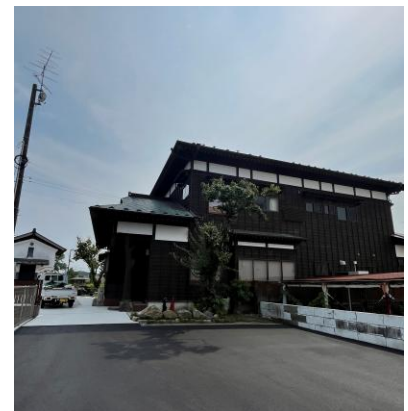
Artists in FUTABA 2024は、福島県双葉町を舞台に学生アーティストの制作・滞在、展示を支援するプログラムです。

2024年10月12日（土）～2025年1月31日（金）までの期間に「五感」をテーマに、福島県双葉町で双葉町をさまざまな切り口で感じていただき、作品という形で表現してくれるアーティスト6組を公募します。

アーティストの募集は9月15日からスタートし、10月から制作開始する第1期と11月から制作開始する第2期の2回に分けておこないます。採択者には、制作費（最大15万円）・滞在費や交通費を支援するとともに、2025年2024年1月23日-27日頃にtotenHOUSEを含む双葉町内において広く展示を行います。

絵画、彫刻、写真、インスタレーション、音楽、舞台芸術、建築、工芸、映画、アニメーション、MV/PV、デジタルアート等、表現ジャンルは問いません。

双葉町の新たな生活や文化、伝統を彩る作品を制作するアーティストの方のご応募をお待ちしております。



事業期間中の主なイベント

Event 1

学生アーティストと地域住民向けのキックオフ

10月12日（土）



11月4日（月）

「Artists in FUTABA 2024」にて招致した学生アーティストに対して双葉町を知ってもらうキックオフを開催する。10月12日～14日、11月2日～4日の2回に分けて開催をし、11月に関しては町民の皆さんにも参加してもらえるオープンな機会とする。

Event 2

学生アーティストによる成果発表会

1月20日（月）

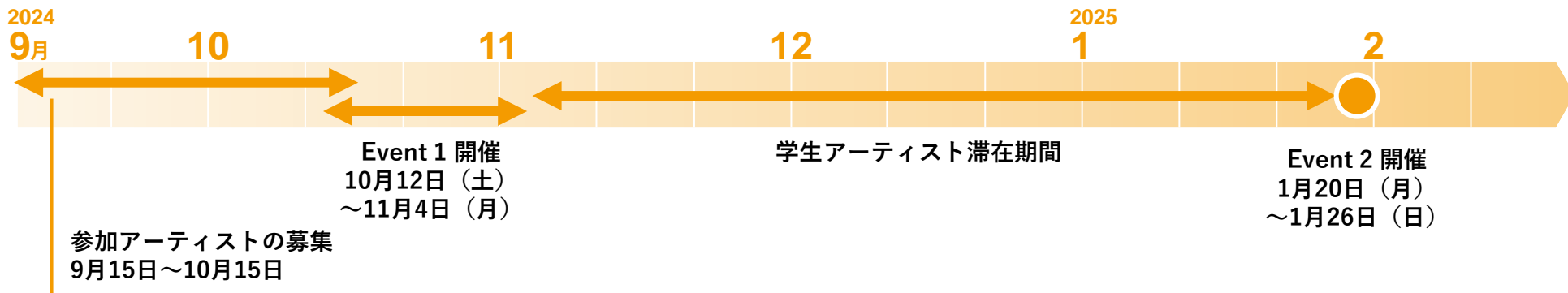


1月26日（日）

1月末までの双葉町での滞在を通して制作した作品の成果発表会を実施いたします。

双葉町内の各所に作品を配置することでまちをフィールドとした芸術祭のような成果発表会をおこないます。

事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 所長 渡邊 晃一

所在地 福島県福島市金谷川1番地

WEBサイト

<http://wa-art.com/rclart/>



事業の基本情報

事業名 鮭のぼり アートプロジェクト

実施地域 双葉町 他

連携団体 東日本大震災・原子力災害 伝承館
他

Point

子どもたちと「鮭のぼり」を制作する活動を
福島大学の学生が実施

事業の概要

本事業は、生まれた川に「鮭」が産卵のために海から戻る習性や福島の自然にたいする想いと重ねて、「鮭」をテーマとしたアートのぼりを制作する活動です。

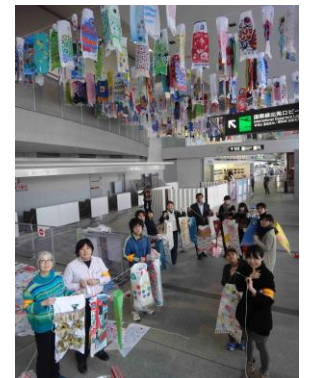
相双地区（浜通り地域）は、震災前に鮭の漁獲が盛んに行われていました。江戸時代は資源保護のため乱獲を禁止し、明治には稚魚を川に放す活動が早くからなされてきた歴史もあります。これまで福島大学芸術による地域創造研究所ではアートによる復興支援プログラムとして「鯉のぼり」を復興のシンボルになぞらえ活動してきました。今回は新たに相双地区の「鮭」をテーマに、アートのぼりの作品を制作します。

事業期間中は双葉町をはじめ福島県内の各地でワークショップを行い、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作する活動を、福島大学の学生が中心となって実施します。

完成後は、東日本大震災・原子力災害伝承館や双葉町など相双地区で、作品を展示します。また記録集やポスターなども作成して、本事業の活動を広く浸透させる予定です。



2013年5月に福島に飾られた
「鯉アートのぼり」



2012年5月に福島空港に飾られた
「鯉アートのぼり」

■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

福島未来を想い、「鮭」のアートなぼりを制作

10月19日 (土)



1月11日 (火)

双葉町をはじめ福島県内の各地でワークショップを行い、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作する活動を、福島大学の学生が中心となって実施。ワークショップの中では、地域住民の方々と地域の未来を語り合いながら、多種多様な形や色彩、言葉なども交えながら、作品を制作します。またHPを設置し、国内外のアーティストに広く作品を募集します。ワークショップは双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館や富岡、浪江、南相馬などの文化施設や福島県内の中学、高等学校で実施（実施場所や日程は調整中）

Event 2

「鮭のぼり」の展覧会と記録集の作成

1月11日 (火)



3月11日 (火)

地域の方々とワークショップで制作された作品と一緒に、国内外から送られてきた「鮭のぼり」を展示。展示場所は、東日本大震災・原子力災害伝承館や富岡、浪江、南相馬などの文化施設で開催したいと考えている。作品制作や展示の際には記念撮影も行い、記録集を作成。HPなどで国内外に広く伝えたい。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 秋元 菜々美

所在地 福島県双葉郡富岡町

WEBサイト

<https://note.com/sacra21/>



事業の基本情報

事業名 土地の時間をめぐる滞在制作事業
(仮称)

実施地域 富岡町

連携団体 合同会社ガラージュ／パフォーマンスユニットhumunus／富岡町／合同会社knot／有限会社宮島達男事務所 富岡サテライトオフィス／月の下アートセンター 他

Point

建築家によるコレクティブ ガラージュによる富岡町夜の森地区に制作する上演が起きる場の設計のためのリサーチ。
パフォーマンスユニットhumunusによる富岡町小浜地区を中心とした土地の物語を編んだ書籍の制作。

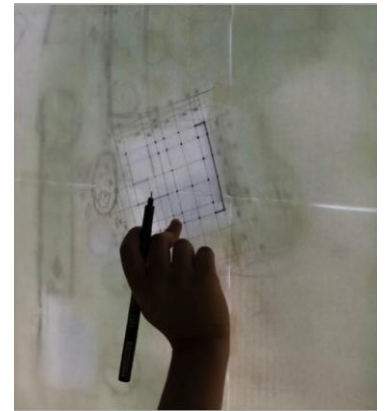
事業の概要

本プロジェクトでは、地域住民とアーティストが「土地の時間」にまつわるリサーチを共に行う中で、過去・現在・未来を横断的に思考していくことを目指し、活動しています。

今年度は2組のアーティストによる滞在制作を行います。

1組目は、建築家によるコレクティブ「ガラージュ」による「空き地を活用した上演が起きる場の設計」。自治体や地域住民と対話・フィールドワークを重ねます。そうした活動の中で生まれた【ことば・写真・ドローイング・ダイアグラムなど】をまとめ、夜の森地区における広い意味での「上演」について考えていきます。

2組目は、パフォーマンスユニット「humunus」によるツアープロジェクト「うつほの襲」のうち、この場所から想像/創造された【ことば、ドローイング、詩】などから土地の物語を編んだ書籍を制作。制作にあたっては、地域のクリエイターとの協働しながら制作を行い、事業終了後の販売を目指します。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

座談会

2月上旬（予定）

ガラージュによる滞在制作の過程やリサーチの中での発見をトークの中でシェアしながら、参加者のみなさんと座談会を行います。座談会は富岡町の「月の下アートセンター」で実施する予定です。

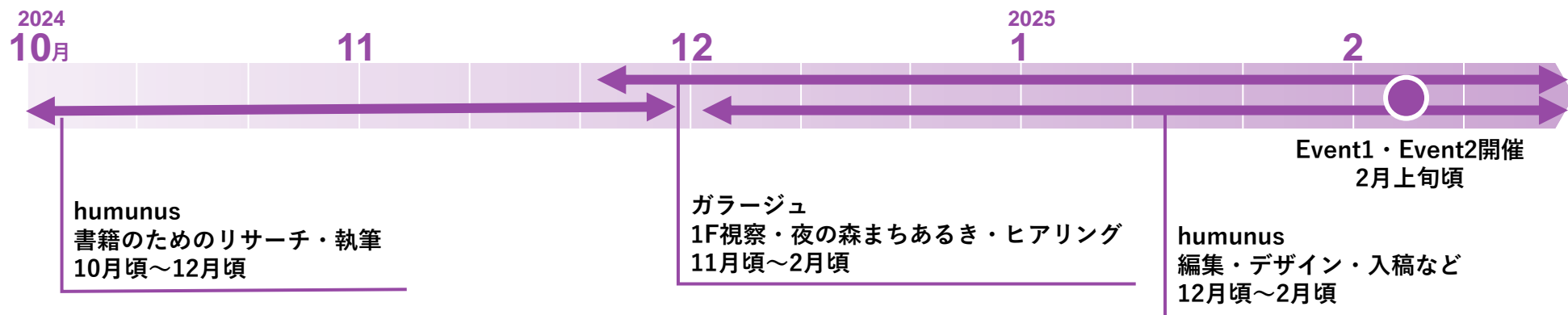
Event 2

トークイベント

2月上旬（予定）

humunusによる書籍制作の過程についてトークを行います。これまでのリサーチを振り返り、どんなことを考えながら作品を制作してきたのかをシェアを実施します。トークは富岡町の「月の下アートセンター」で実施する予定です。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 渡辺陽一

所在地 福島県いわき市植田町中央2-6-5

WEBサイト

<http://ueda-printing.com/>



事業の基本情報

事業名 ロック・キッチン

実施地域 富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市

連携団体 川内有緒／三好大輔（株式会社アルプスビジュアルズ）／marutt株式会社／おれたちの伝承館／坂本英紀（有限会社クリップクラブ） 他

Point

「食にまつわる風景」をテーマに映像を集め、人々の暮らしや生き方を紐解いてゆく

事業の概要

「ロック・キッチン」は、川内有緒氏（ノンフィクション作家）と三好大輔氏（映画監督）が、福島県内の国道6号線（通称ロック）沿いの地域を旅しながら、そこに住む人々の「食」「キッチン」「レシピ」を切り口に、暮らしを紐解き、エッセイとドキュメンタリー映画を制作するプロジェクトです。

福島第一原子力発電所が立地するという特殊な背景を持つ「大熊町」「双葉町」その周辺の町を中心に取材や撮影を重ね、多様な背景を持つ人々が共存する町で、「食」を切り口に、人々の暮らしや生き方を紐解いてゆきます。

昨年に続き、第2フェーズとなる今回の滞在制作では、「ロック・キッチン」長編ドキュメンタリー映画の今年度中の完成を目指し、引き続き大熊町、双葉町を中心とした浜通りエリアに滞在し、映像撮影及び取材を行います。

「食にまつわる風景」をテーマとして、震災前に記録したホームムービーなどの個人的な「映像」を一般の方々から募ります。映像は、調査・修復・デジタル化を行い、それらを整理し、撮影された土地での上映会を実施します。

また、応募時には文章や当時の思い出などを添えて応募いただき、その文章を川内有緒氏が書き下ろすエッセイと共にまとめます。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

映像収集イベント

12月14日（土）

映画本編で重要な素材となる、東日本大震災以前の「食のある風景」を探し出すべく、ホームムービー映像の公募イベントを実施します。

各種メディア（8mmフィルム、Hi8、VHS、ミニDVなど）の再生機を会場に準備し、その場で素材の確認を行います。また、交流の機会として映像素材を持ち込まない方でも楽しめるように、「ロココキッチン」プロジェクトムービーや当日までに集まっている素材の上映も行う予定です。映像の収集にはイベントの他、郵送・メールでも募集します。

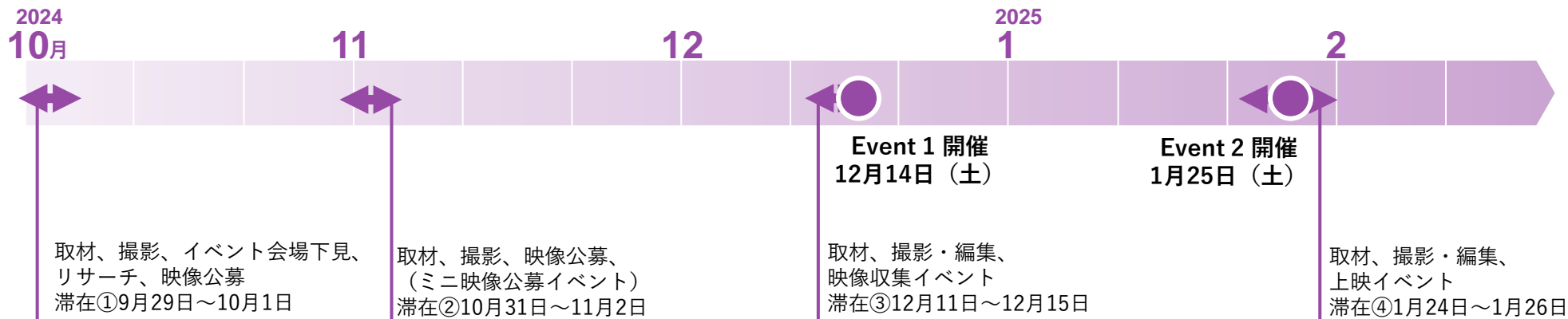
Event 2

上映イベント

1月25日（土）

集まったホームムービーをまとめた映像の上映イベントを福島県南相馬市・小高区「俺たちの伝承館」にて開催します。会場内5カ所にプロジェクターを設置し上映を行うほか、芸術家と地域プレイヤーによるトークイベントや交流会もあわせて開催します。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 折田 千秋

所在地 秋田県秋田市

WEBサイト

<https://www.chiakiorita.com>



事業の基本情報

事業名 地域風景の印象色をもとにしたグラフィック作品「コレクティブ・イメージ」の制作及び展示

実施地域 葛尾村、浪江町

連携団体

Point

地元の人を選ぶ印象色をもとに、風景を再構築する

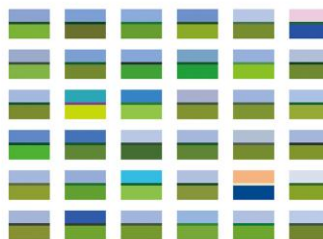
事業の概要

本事業は、折田が2019年より行っている地域芸術プロジェクト「コレクティブ・イメージ（印象の集合知）」の福島版です。この地域芸術プロジェクトの趣旨は、地域関係者に協力してもらい作品を制作することで地元らしい風景の再発見・再認識を促すことです。

制作過程は①地域らしい風景をリサーチし②地元の人にその印象色を選んでもらい③その色をもとにデジタルデータで風景を再構築する三段階になります。

埋没している風景を発見し地元の人に印象の色を選んでもらう際に人々の記憶や体験を通して語られる情景の色を通して、新たな風景の集合知を制作します。

特に、12市町村は震災以前と現在とで断絶されてしまった地域の風景に対する地元の人々の認識を制作過程で伺うことで、過去から現在までの場所や風景に対する思い・感じ方の総体や集合知を可視化することを目指します。



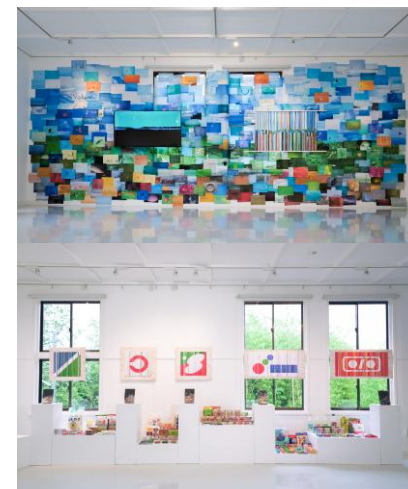
1.地域の風景と地域の人を選んだ印象色



2.地域住民に風景の印象の色を答えてもらう



3.「コレクティブ・イメージ@那珂湊」



4.「コレクティブ・イメージ@塩竈」での展示風景

■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

「コレクティブ・イメージ@（仮）」

1月4日（土）



1月19日（日）

葛尾村の「Katsurao Collective」および浪江町の「STUDIO-B6」で、展示を行います。
地域の風景を再構築したグラフィック平面作品数点や、風景へのインタビュー動画を展示します。

※左記日程での開催が困難な場合は、2024年12月下旬または2025年1月中旬～下旬での開催を予定しています。

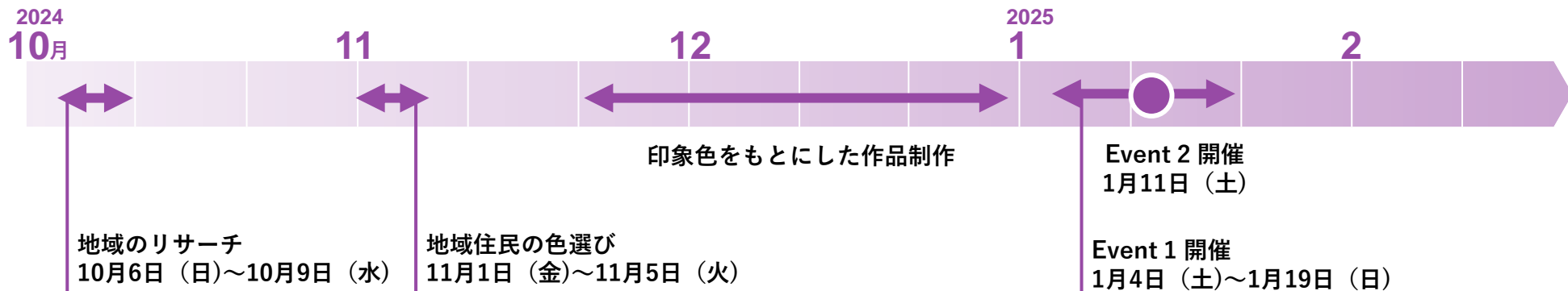
Event 2

風景の集合知から考えるトークイベント

1月11日（土）

文化人類学者・石倉敏明氏と美術批評家・福住廉氏をゲストでお招きしつつ、地元住民や関係者を交えたトークイベントを開催予定。「風景×美術×記憶や体験などの集合知」をキーワードに、芸術実践を通じた地域との関わりや風景の認識について、文化的側面や美術的側面、生活者の主観的な側面から多角的なトークを行いたいと考えている。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 川口 雄大

所在地 福島県南相馬市原町区本町3-21

WEBサイト

<https://hattatsu.jp/>



事業の基本情報

事業名 アーティストインレジデン業

実施地域 南相馬市

連携団体 酒井貴史／永畑智大／南相馬市博物館／四つ葉保育園 他

Point

地域の廃材や漂着物を収集して神社制作と、地域の歴史や文化を反映した壁画制作

事業の概要

福島県沿岸部は、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故により大きな被害を受けました。地域の復興が進む中で、震災や災害によって生じた廃棄物、漂着物などのゴミ問題が依然として課題となっています。本補助事業では、地域のゴミ問題をアートを通じて解決し、持続可能な社会を目指すための新しいアプローチを提案します。

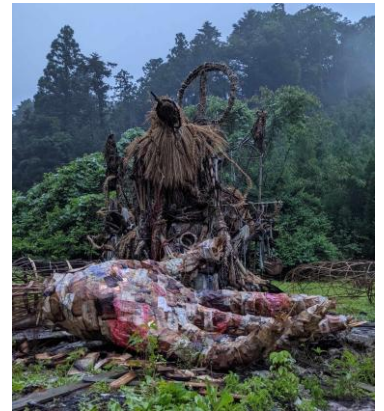
事業期間中は2名の芸術家による滞在制作を行う予定です。

芸術家1：酒井貴史氏

地域の廃材や漂着物を収集し、それらを再利用して神社を制作します。また、地域住民がワークショップで制作に参加することや、制作過程の公開を予定しています。完成後は、神社を地域のシンボルとして公開展示します。

芸術家2：永畑智大氏

地域の歴史や文化を反映した壁画を制作します。地域住民からのヒアリングや調査を基に、壁画のデザインを決定し、地域の象徴となる作品を制作します。また、壁画と連動した絵本を制作し、地域の子供たちに配布します。壁がの制作過程は公開し、また完成後は公開展示する予定です。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

ワールドおさがりセンター

12月15日 (日)

南相馬を中心にいろんな方々から、使わなくなった物などの「おさがり」をいただきます。

12月18日 (水)
(予定)

集めたおさがりは、「神社発達」の素材として使用し、「おさがり」を神社という新しい形に生まれ変わらせます。「おさがり」を寄贈した方々が、生まれ変わったおさがりの見るために神社を訪れることで、新しい交流を生み出します。

Event 2

神社御開帳展示会

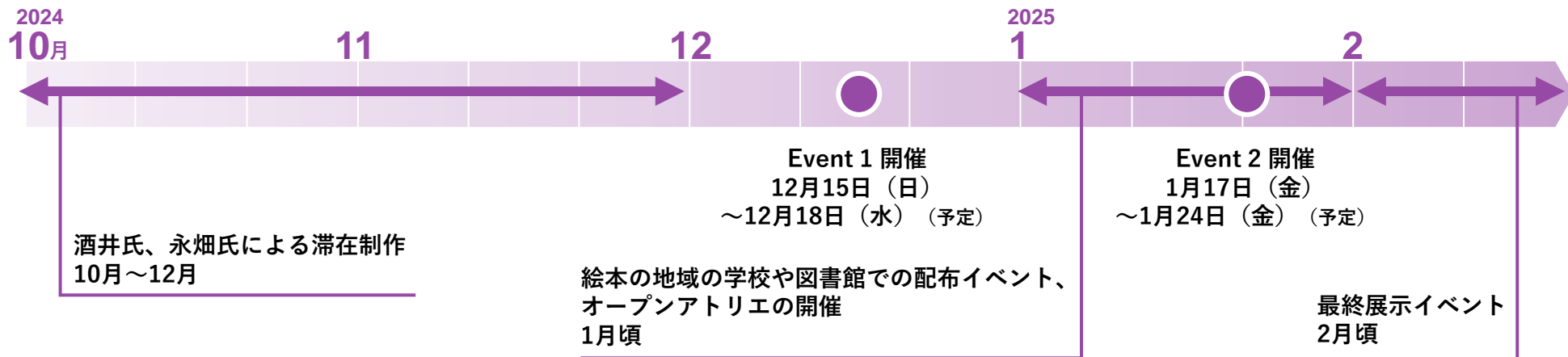
1月17日 (金)

制作活動を行う芸術家の酒井氏、永畑氏の作品を公開します。酒井氏の廃材を使用して制作する神社は、物と人をつなぎ、自分や誰かの発達を願う場所「神社発達」として公開し、人々が参拝できる場所とする予定です。

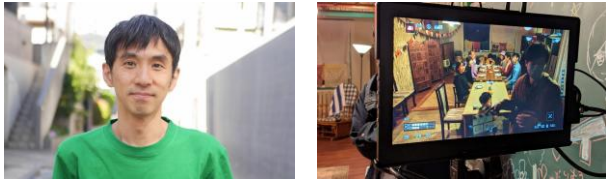
1月24日 (金)
(予定)

また、この神社発達が制作された過程を、永畑氏が絵本にまとめます。完成した絵本は、これから発達してゆく子どもたちが読めるよう、地域の施設に寄贈する予定です。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 松本 卓也

所在地 東京都渋谷区初台2-21-5

WEBサイト

<https://cineken.com/>



事業の基本情報

事業名 福島県12市町村ロケ映画プロジェクト
川内村編 ～ 映画制作&ワークショップ～

実施地域 川内村

連携団体 秋風舎/町分オルタナギャラリー/コドモエナジー株式会社/コミュニティハウスにじいろ/かわうちワイン株式会社/森恵美 (俳優)/岩崎登 (撮影カメラマン) 他

Point

川内村を舞台とした映画を、ゼロから脚本を執筆して制作

事業の概要

本事業では、川内村を舞台として映画を制作します。

脚本をあえて用意せずにゼロから執筆します。
川内村の方々への取材、ヒアリングを丁寧に行い、その時その場所で生まれる物語を村の人々と共に作り上げます。

また12市町村を中心に広く、スタッフやキャストを募集。
企画から撮影、上映までの参加型ワークショップを開催します。

映画の完成後は、制作した映画のお披露目上映会を行います。
そして出演者・監督などによる撮影時の様子を語るトークイベント、観客を交えた車座も行い、作品に込めた想いを参加者と共有する予定です。

映画監督を務める代表の松本氏は、ヒトクセありながら、クスッと笑えて、ホロリと泣ける、人間味溢れるストーリーを得意とし、オリジナル脚本で制作された映画は、国内外の多くの映画祭で受賞しています。



事業期間中の主なイベント

Event 1

映画撮影

2024年
11月頃

脚本はあえて用意せずにゼロから執筆。
川内村での取材、ヒアリングを丁寧に行い、その時その場所で生まれる物語を川内村の方々と共に作り上げます。
また12市町村を中心に広く、スタッフやキャストも募集します。

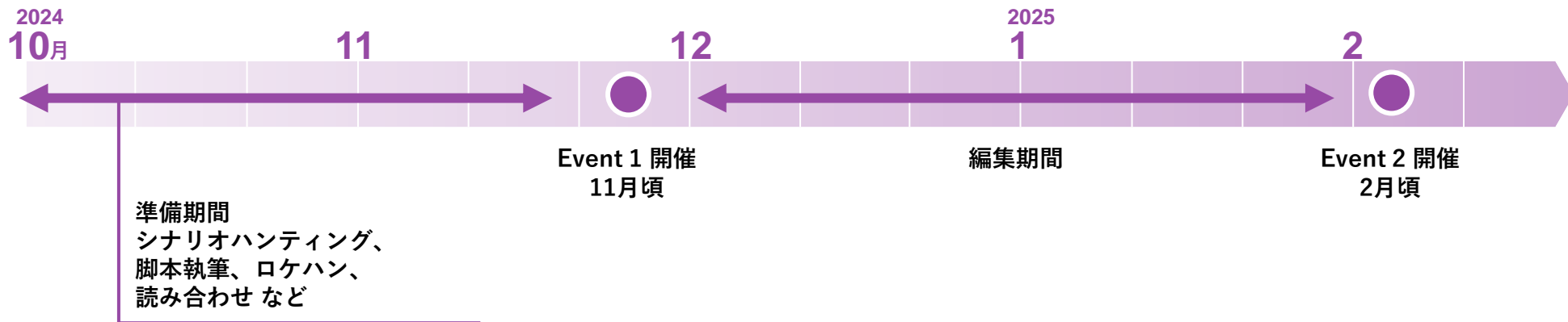
Event 2

上映イベント

2025年
2月頃

制作した映画のお披露目上映会を行います。
そして出演者・監督などによる撮影時の様子を語るトークイベント、
観客を交えた車座も行い、作品に込めた想いを参加者と共有します。
登壇者から来場者まで、参加者全員が気軽に話せる時間も設け、地域内外の人々の交流の場を目指します。

事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 星 善之

所在地 福島県耶麻郡西会津町

WEBサイト

<https://www.area51map.net/tabisurutatakiba>



事業の基本情報

事業名 旅するたたき場in檜葉町 即興演劇の上演とWS事業

実施地域 檜葉町

連携団体 個別志導塾「燈 -tomoshihi-」 他

Point

日常と非日常の地続きを表現する即興演劇

事業の概要

旅するたたき場では、宮澤賢治「銀河鉄道の夜」に出てくる化石発掘の場面（プリオン海岸）をモチーフにした即興演劇作品を上演します。プレートテクトニクスによって海の生物の化石が陸で発見されるという出発点から、地球が持つ壮大なエネルギーを下地に、2024年11月継続的に行っている檜葉町でのリサーチ、11月実施予定の檜葉町での継続的なWSを通して私たちが会った檜葉町と、私たちも共に想像する、これからの檜葉町を発掘するような「エネルギー・人・物語の交流」をテーマにした作品を展開します。

使用する道具や美術は、私たちが志向するエコセノグラフィーの精神にのっとり、借り物や廃棄物を主に使い、環境に負担をかけないことを重視する。観客と一緒に廃材や日用品を使って客席や標本をつくるなどの参加型の要素を含みながら、演劇や音楽を用いての即興パフォーマンスとして情景を立ち上げます。

2月に予定している成果発表では、一般的な演劇作品のような「〇〇時〇〇開演～」のようなスタイルをとりません。舞台芸術が非日常的な体験であると同時に、食事や家事などの生活と地続きにあることを、体験として実感していただくため、午前11時に開場し、21:00に終演するまでの間、食事やWS、即興公演などを断続的に行っていきます。都市と町、過去と未来、ソトの人とウチの人が混ざり合い、檜葉町の雄大な自然とともに流れるゆるやかな時間の中で日常と非日常が共存する作品を展開します。

会場：ならばCANvas



事業期間中の主なイベント

Event 1 「絵本をとびだせ～朗読劇を創ろう～」 (仮)

11月15日 (金)

▼
11月16日 (土)

参加者たちが持ち込んだ廃材や日用品など一般的には楽器ではないものを使用して音を作り、体の動きに音を当てて、絵本を題材にした小さな無声映画のような朗読会を開催する。大人と子供、両方を対象としたWSを開催し、参加者とのコミュニケーションを育みながら、多世代にSEづくりの面白さを体験してもらう。 企画者：中野志保 ジャンル：音楽

Event 2 『プレオシン海岸』（「銀河鉄道の夜」）を声に出して読む会 (仮)

12月10日 (火)

2月に上演する即興演劇の下地となる『プレオシン海岸』（「銀河鉄道の夜」）をWS参加者と輪読し、感想をシェアする会を開催する。想像力のままに、正解がない自由な輪読を行い、作品世界を楽しんでもらう。輪読後は、読んだ感想や、イメージしたことなどをシェアする。答えのない旅と一緒に楽しむのが目的。 企画者：星善之 ジャンル：演劇、文学

Event 3 「身体で読む、町とアナタのお話」

1月25日 (土)

檜葉町に残る民話を、現在の社会の視点から眺め、わたしたちは何を受け取ってきて、どのように生きていくのかを再考することを目的とする。シアターゲームのようなWSも行い、演劇的な体験も行う。 企画者：星善之 ジャンル：演劇・文学・歴史

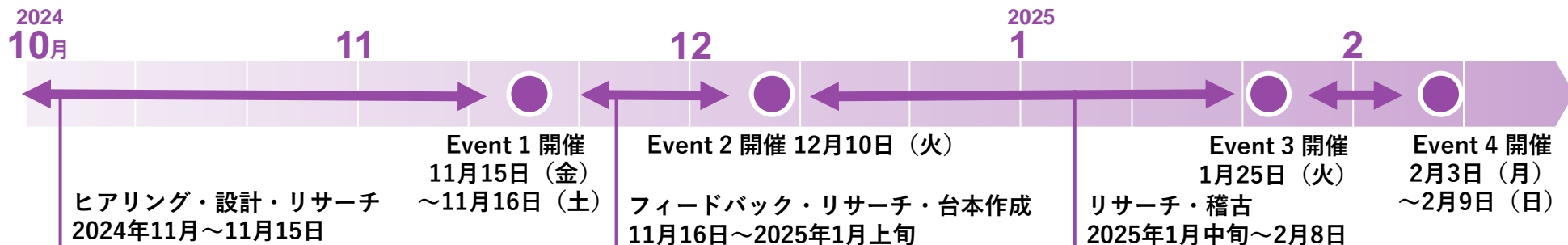
Event 4 即興演劇「くるみの実をみつけた」 (仮)

2月3日 (月)

▼
2月9日 (日)

滞在期間を通して、作品の道具などを参加者と作るWSなどを行い、1日かけての即興演劇「くるみの実をみつけた」(仮)を上演する。これまでのWSの内容を含んだ、旅するたたき場が感じとった檜葉町について提示し、これからの檜葉町について参加者と共に考えられるような企画とする。 企画：旅するたたき馬 作：神保治暉 ジャンル：演劇・音楽・美術・文学・歴史

事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 増田 洋誉

所在地 東京都足立区

WEBサイト

<https://100toku.net/>



事業の基本情報

事業名 葛尾村の百徳

実施地域 葛尾村

連携団体 Katsurao Collective / 葛尾村役場
/ サウナ発達 他

Point

地域の人々とのつながりの中で生み出される
「葛尾村の百徳着物」

事業の概要

百徳は祈りのためのパッチワーク。

子供たちの健やかな成長を願うため、徳の高い100軒のお宅から布をもらいうけ縫いつなげた「百徳着物」は江戸時代から続く産育習俗です。

チーム百徳は日本各地に滞在しながら地域の百徳着物を制作しています。

チーム百徳では、すでに葛尾村で月に2回程度パッチワーク教室を行っており、「村のお母さんたち」と呼ばれる女性たちのおしゃべりの場として、交流の場に参加しながら、新たなパッチワークの可能性創出しています。

本事業では、この葛尾村で、地域の布を集めて、地域の人たちと一緒に縫い繋ぐ百徳ワークショップを開催します。

布を地域の人からもらい受ける過程、そして布を縫い繋げる作業の中で、たくさんの地域の人々の協力を受け、また対話の場を生み出します。

ワークショップで完成した「葛尾村の百徳着物」は、本事業で開催する食・音楽・マッサージを楽しめるイベント「スナック百徳」で展示する予定です。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1 かつらお恵みの感謝祭での出展

11月3日（日・祝） 葛尾村で開催されるイベント「かつらお恵みの感謝祭」で、葛尾企画室とのコラボレーションで出展を行います。

日時：2024年11月3日 9:45~15:15

場所：みどりの里広場（葛尾村大字落合字菅ノ又6-1）

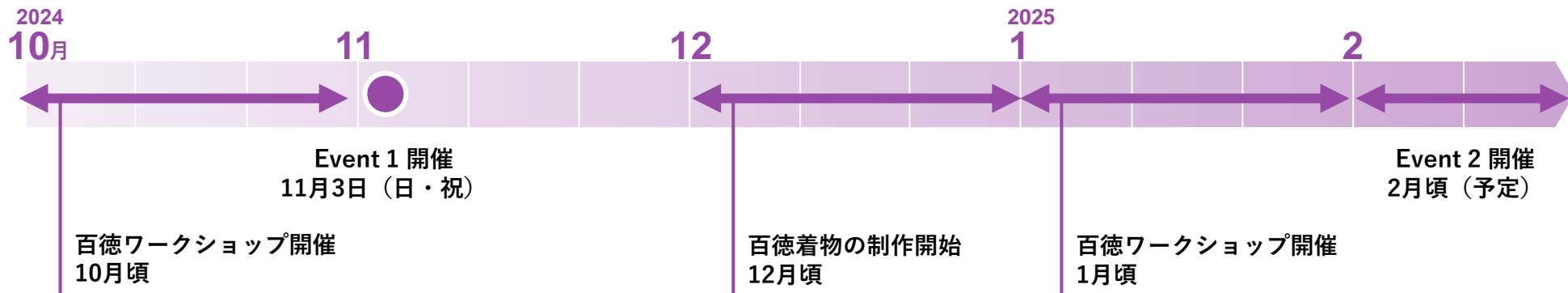
詳細：<https://www.katsurao.org/soshiki/1/2024kansyasai.html>（葛尾村Webサイト）

Event 2 展示イベントの開催（調整中）

2月頃（予定）

百徳ワークショップで完成した「葛尾村の百徳着物」は、葛尾村やその他12市町村内等で展示をする予定です。現在、本事業で開催する食・音楽・マッサージを楽しめるイベント「スナック百徳」や、南相馬市の「サウナ発達」等での展示企画を準備中です。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 板橋 基之

所在地 東京都目黒区目黒3-17-11
ドルフ目黒1209

WEBサイト

<https://www.basiccinema.com/>



事業の基本情報

事業名 映画『そこにあるべきものたち』
福島浜通り縦断上映会

実施地域 浪江町、南相馬市、いわき市

連携団体 浪江町／なみえコミュニティシネマ
／朝日座／まちポレいわき

Point

浜通りで制作された映画を 浜通りで上映する。
浪江町請戸地区の苕野神社 再建ドキュメンタリー
映画『そこにあるべきものたち』 浜通り縦断試写会を開催。

事業の概要

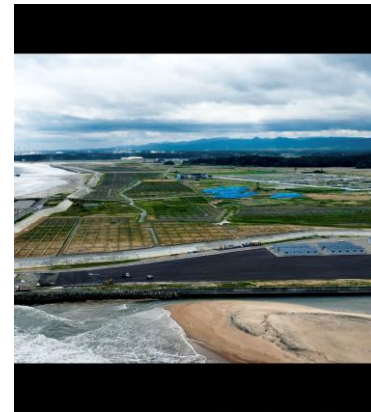
株式会社ベーシックシネマは、2023年のハマカルアートプロジェクトにて、浪江町での滞在制作を行い、請戸地区にある苕野（くさの）神社の再建ドキュメンタリー映画を撮影しました。その後、編集期間を設け、2024年7月に映画『そこにあるべきものたち』が完成しました。

映画『そこにあるべきものたち』は、苕野神社が再建される様子を描くと共に、その再建に関わる元請戸住民たちの声を集めたドキュメンタリーです。請戸で伝承されてきた神楽や田植踊など、そこにしか存在しないモノを描いています。

そして、浪江町の映画は浪江町で上映したいという思いから、今年度、苕野神社での奉納試写上映を企画開催。その他、南相馬市の朝日座、いわき市のまちポレいわき、での試写上映イベントを行う予定です。

映画にご出演いただいた取材先の方々には、映画上映会に参加していただき、舞台挨拶や交流会などを企画します。

事業期間中は、監督であり代表の板橋基之氏が、浜通りに滞在し、映画上映に向けた場所の選定、日程の調整、トークイベントの企画、イベントの宣伝や告知活動を行います。



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1 映画『そこにあるべきものたち』 浪江町・苕野神社 試写上映会

11月16日 (土)

ドキュメンタリーの舞台でもある苕野神社の境内にスクリーンを張り、奉納野外試写上映会を行います。

Event 2 映画『そこにあるべきものたち』 南相馬市・朝日座 試写上映会

12月14日 (土)

朝日座での上映会は、犬童一心監督をお迎えし、トークイベントを行います。

Event 3 映画『そこにあるべきものたち』 いわき市・まちポレいわき 試写上映会

1月18日 (土)

まちポレいわきでの上映会は、ナレーションを担当された富田望生さん（交渉中）をお迎えし、トークイベントを行います。

■ 事業全体のスケジュール



事業者情報



代表者 松本 律子

所在地 神奈川県相模原市

WEBサイト

<https://ritsukomarimba.com/>



事業の基本情報

事業名 川俣町の来し方行く末を、世界中で聞いて、感じる

実施地域 川俣町

連携団体

Point

Voice & Sound of KAWAMATA

川俣町の声と音で音楽を紡ぐプロジェクト

事業の概要

私、松本律子は福島市生まれ、幼少期の多くの時間を川俣町で過ごしました。現在、マリンバ奏者、フィールドレコーディング作家として神奈川県相模原市を拠点に活動しています。祖父母と過ごした自然に親しむ川俣町での体験は音楽家としての人格形成に大きく影響しています。

今回、川俣町に住む方々の日常のおしゃべり、昔から伝わる民話、町にあふれる音などを録音し、またコンセプトを「視覚」ではなく、「聴覚」に絞り、川俣町の歴史、民話、生活の声と音を、音楽で紡ぐプロジェクトを立ち上げます。

事業期間中は、川俣町に滞在し、住民の方の語りや町の音を録音し、音楽作品としてまとめ、世界標準の音楽系ストーリーミングサイトでリリースする予定です。さらに、リリースを祝うイベントを川俣町で開催することも予定します。

本事業によって、次第に語られなくなっていく民話や生活体験、震災体験をも含む、川俣町の人々の素朴な「語り」を記録に残すこと、そして、それをテキストや動画ではなく、「音」で残し、川俣町の名が全世界へ発信されることを目指します。



【聞く耳頭さん】
～川俣町民話より～
(デモ音源)



■ 事業期間中の主なイベント

Event 1

10月



1月

声と音の収録会

住民の方の民話、生活体験、震災体験の語りを録音。

川俣町の音をフィールドレコーディング。季節の催し、伝統文化の音の録音。

*スケジュールは現時点での目安です。臨機応変に決定していきます。

Event 2

2月

Voice & Sound of KAWAMATA

出来上がった音楽作品のリリース記念コンサート。

■ 事業全体のスケジュール

